



HIROMI YOSHIDA

1996-1997 automne-hiver collection

No.2



吉田ヒロミ プロフィール

- 1941年 東京の六本木に生まれる。
- 1960年 高校卒業後、セツモードセミナーにてファッションイラストを学ぶと同時に、母親の経営する[®]オートクチュールSetsu[®]にて服づくりの技術修業をする。
- 1964年 セツモードセミナー卒業、渡仏。
日本人として初めてジヴァンシー社に入社。デザイン及び技術を認められ、ジヴァンシー社より7年間有効の労働許可証を取得。アトリエチーフのアシスタントであるセグンドになり、オーダー・ヘッパーンをはじめV.I.P.顧客の担当となる。
- 1968年 アメリカハーバース・バザー社のスチリストに推薦され渡米。ニューヨークで一年間コーディネート力を養う。
- 1969年 パリのジヴァンシー社には戻らず帰国。
母親の経営する[®]ブティックSetsu[®]のオートクチュールデザイナーとしてクリエイション活動をはじめ。
- 1971年 第1回吉田ヒロミオートクチュール春夏コレクション発表。
- 1972年 ブランド[®]イグレク[®]発表。
- 1978年 T.D.6のメンバーとなり、第14回'78~'79秋冬コレクション発表。
- 1980年 株式会社吉田ヒロミデザインインターナショナル設立。
[®]CLOVE vs CLOVES/クローブ クロース[®]発表。
- 1986年 東京ファッションデザイナー協議会(C.F.D.)の設立にかかわりメンバーとなる。
- 1989年 社団法人ザ・ファッショングループに入会。委員を務める。
- 1992年 プレタクチュール'92秋冬HIROMI YOSHIDAコレクション発表。
- 1996年 1月、プレタクチュールHIROMI YOSHIDAコレクション、プレタポルテCLOVE vs CLOVESの2ブランドを中心に、企業のユニフォームを含め意欲的にデザイン活動を展開。また、各種ファッションコンテストの審査委員としてファッション界をバックアップしている。

吉田ヒロミ



'96年「ハイファッション」5月号パリコレ号の発売日を最後に、足かけ40年間勤めた文化出版局を、私は定年退職した。

「装苑(現so-en)」「ミセスの子ども服」「ミセス」「ハイファッション」など主に雑誌中心の編集者生活、途中so-enパリ支局の勤務はとりわけ思い出深いものがある。今と違って古き良き時代のたたずまいを残したパリの都は、それまでの人生観を根底から、覆すだけの魅力に満ちあふれていた。吉田ヒロミさんにはじめて出逢ったのも、そんなむかしのパリで、だった。

'67年12月のクリスマスイブに、私の支局長就任も兼ねたパーティーがフォーブル・サントノレの一筋裏通りにあるオフィスで開かれた。カメラマンの増淵達夫さん、現支局長の藤井郁子さんを中心に、ピエール・カルダン氏、高田ヨシさん、元スーパーモデルの松本弘子さんをはじめフランス人のカメラマンや当時パリ在住の日本人であふれるようにぎやかさ、宴もたけなわになって人々が三々五々帰りだした。ふしぎに思ってしまったら、レストルームの鍵が開かない。キッチンに面した高窓からのぞくと一人の女性が倒れていた。

吉田ヒロミさんは、その夜のパーティーにルームメイトのユミ・シャロー(高木弓)さんと連れだってはじめてso-enオフィスを訪れた人である。その数年前、彼女はジヴァンシーのメゾンに採用されるまで通いつめ、セゴンド(アトリエチーフのアシスタント)にのぼりつめていた。

パーティーの真夜中、トイレの中でドラマティックな出逢いをした彼女とは、その翌日から東京へ送る「装苑」の技術原稿でお世話になることになった。以来30年あまりの交流が続くことになる。当時の日本のファッション雑誌といえば、「装苑」「ドレスメーカー」「若い女性」「服装」の四誌と、創刊間もない「ハイファッション」そして「モード・エ・モード」ぐらいだろうか。殆どが廃刊になって現存しているのが二誌だけというも淋しさと、時の流れを感じずにはいられない。

パリのオートクチュールでしごかれた確かなテクニックと、生来のがまん強さ、

そして日本女性には珍しい平静な判断力、目(感性)と手(技術)が同一に活動する類まれな能力……。数えあげたらきりのない吉田ヒロミさんの資質は、パリからニューヨークへ留学してさらに磨きがかかった。

'70年、私は、「ハイファッション」の編集長に、彼女は母上の経営するブティック「Setsu」でデザイナーとして再スタート。雑誌を通して本格的な交流がはじまるのである。時はまた東京のDCブランド台頭期でもあった。

それからは仕事のみにとどまらず、プライベートにまで及んだ。時には恋の切なさ、結婚相手の選択に、また母娘との葛藤など……。深夜まで飲みながら話合ったことも今は楽しい思い出の中。さらにプレタポルテの会社「イグレグ」設立、出産、と本来女性が為すべきこともすべてクリアしながら、デザイナーとして'70年代の日本のプレタポルテ全盛期へ、ジヴァンシー時代と同じようにわき目もふらずにまい進した。

私は彼女の作るテーラードタイプのパンタロンスーツが大好きだ。サンローランがその数年前に発表した「シティパンツ」のエレガントさを継承して、日本の働く女性へカジュアルエレガンスという素晴らしいプレゼンテーションをし続けた。今、新世代のデザイナーが続々誕生しているが、パターンも縫製技術も、そして着こなしのコーディネートも、一人で提案出来る人が非常に少なくなっている。時代に合わせて分業が進んだせいだが、やっぱりファッションデザイナーの基本には、技と感性が同居して欲しいと思うのは欲張りだろうか。

そのすべてが、本能的にクリア出来る数少ないデザイナーの一人、吉田ヒロミさんへの新たなメッセージは、趣味と実益が一致して生きられる幸せを改めてかみしめてほしいと思う。同じ道を私も、C・F・D(東京ファッションデザイナー協議会)のまとめ役として再スタートしはじめた。パリでなくて東京の街の中で…。

久田 尚子

東京ファッションデザイナー協議会議長
文化出版局特別顧問

1996-1997 automne-hiver collection

HIROMI YOSHIDA Prêt-à-couture

ヴィスコンティへの想い

'50年代のモード情報の発信は、パリのオートクチュールデザイナーが衣裳を担当するシネマ・モードでした。吉田ヒロミはオードリー・ヘップバーンに憧れ、'60年代の初期にジヴァンシーの門をたたき、パリオートクチュールの技術と感性を修得しました。ヒロミ ヨシダプレタクチュールは、洋服づくりの最高峰であるパリオートクチュールの技術を駆使して創りあげる、インターナショナルに活躍するエグゼクティブレディへのモード発信です。

秋・冬のテーマは、「ヴィスコンティへの想い」。イタリアの貴族出身の映画監督ヴィスコンティが描く、凛としてエレガントなヒロインをイメージしてデザインしています。とはいえ、吉田ヒロミが描く貴族趣味はあくまでもシンプル。飾りボタンやステールビーズなどの助けを借りず、上質な素材と絶妙なカットと縫製のみで気品あるゴージャスを完成させました。それはまるで「ルートヴィヒ」の映画のヒロイン、ロミー・シュナイダーが演ずるエリザベート(ルートヴィヒ王が憧れ恋する若い伯母役)にオーバーラップするような、若々しく清楚なセクシーが漂います。かろやかながらゴージャスなヒロミ ヨシダスタイルは、このシーズンを彩るさまざまなパーティーシーンにふさわしい作品です。

CLOVE vs CLOVES

優しさへのいざない

クローブ クローブスは、アクティブに生きる女性たちへの吉田ヒロミからのメッセージとして発信するプレタポルテコレクションです。ファッショナブルな小物で、多目的に表情を変える可能性をもつシンプルなライン。また、機能性を備えたベーシックな永遠性のあるデザインは、コーディネートによって時代性を演出してくれる知性が香る作品群です。

今シーズンは、「優しさへのいざない」。混沌とした時代であっても精神的にゆとりをもって、自分流に生きてほしい…。そして、どんなシーンの中でも女性としてのエレガントさを失わずにいてほしい…。吉田ヒロミはクローブ クローブスのデザインにそんなメッセージを込めています。例えば、ラフな素材として知られているベットのボトルを再生したフリース。軽くてしなやかなエコロジカル素材として布に對峙し、エレガントなカジュアルウェアに創り上げました。

スーツ、ジャケット、パンツ、コート…、どのアイテムもビリンとした知的なデザインながら女性の優しさが漂います。シックでダークな色調の装いに、明るい色をそえて華やかとセクシーを演出する。今シーズン、吉田ヒロミが提案するクローブ クローブススタイルの一つです。





















HIROMI YOSHIDA

1996-1997 automne-hiver collection

「直営ブティック」

ヒロミ ヨシダ西麻布本店

〒106 東京都港区西麻布3-21-22 YHビル TEL:03-3403-0857

クローブ クロース静岡店

〒420 静岡県静岡市伝馬町9-3 芝田ビル1F TEL:054-272-8668

クローブ クロース岡山店

〒700 岡山県岡山市表町3-2-27 TEL:086-234-5142

クローブ クロース高知 バニラボイス店

〒780 高知県高知市追手筋1-9-8 TEL:0888-23-6679

クローブ クロース大分店

〒870 大分県大分市中央町2-1-22 NEXTビル2F TEL:0975-32-0480

クローブ クロース広島店

〒730 広島県広島市中区三川町5-4 TEL:082-249-5710

商品に関するお問合わせは、株式会社吉田ヒロミデザインインターナショナル及び上記のショップにて承ります。

「吉田ヒロミ ライセンス商品」

婦人フォーマルウェア:株式会社東京ソワール

紳士ネクタイ:渡正ネクタイ株式会社

婦人メガネ・サングラス:株式会社テレホンメガネ

婦人ニットカットソー(通信販売):株式会社フェリシモ

婦人オフィスユニフォーム:セロリー株式会社

HIROMI YOSHIDA

株式会社吉田ヒロミデザインインターナショナル 〒106 東京都港区南麻布4-5-53 TEL.03-3441-2174 FAX.03-3441-2356